

2022 クイック イマージョン シリーズ カタログ

ティビダボ パブリッシング
ニューヨーク

ティビダボ パブリッシング
バルセロナ

クイック・イマージョン・シリーズは、社会科学、哲学、人文科学などさまざまな分野のテーマについて、一般読者向けにわかりやすく解説するイントロダクションシリーズです。国際的に高い評価を受ける各界の専門家を著者に迎え、各分野の知識を深めることを願うあらゆる読者のために、明快な文章を通じて価値ある情報と知見をお届けいたします。

アートディレクターズ・グラフィックデザイナーズ協会が主催するLAUS賞（ベストデザイン・オブ・ザ・ブックシリーズカバー）を受賞。

2022 クイック イマージョン シリーズ カタログ

ティビダボ パブリッシング
ニューヨーク

ティビダボ パブリッシング
バルセロナ

© Tibidabo Publishing, Inc. New York.
1350 Broadway
New York, New York 10018
+1 (917) 259-1221
customers@quickimmersions.com
www.quickimmersions.com

Published by Tibidabo Edicions, SA, Barcelona

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, scanning or otherwise, without the prior permission in writing with the Publisher or as permitted by law, or under terms agreed upon with the appropriate reprographics rights organization.



Generalitat de Catalunya
Government of Catalonia

クイック・イマージョン・シリーズ

1. 脱絶滅	6
2. ポピュリズム	8
3. 幸福論	10
4. 料理という科学	12
5. アリストテレス	14
6. ユダヤ文化	16
7. ファシズム	18
8. 非暴力	20
9. フランス革命	22
10. ジャズ	24
11. パリのノートル・ダム大聖堂	26
12. 公民権	28
13. フェミニズム	30
14. 国際移民	32
15. 人生の意義	34
16. 宗教	36
17. 近代建築と都市	38
18. 不安	40
19. 美の本質	42
20. 自閉症	44

1. 脱絶滅

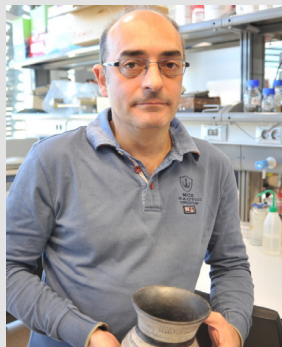
主題:

マンモスを始め、絶滅した生物種を甦らせるというスリリングな挑戦に関するショートイントロダクション。

De-Extinctions A Quick Immersion

Take a short journey into the challenging world of bringing extinct species such as the mammoth back to life.

Carles Lalueza-Fox



- タイトル: 脱絶滅
- 著者: カルラス・ラルエーザ・フォックス
- 巻: 1
- ページ数: 162
- ISBN: 978-1-949845-00-6
- 小売価格: 12.00 USD

書籍概要:

生物種であれ個体であれ、一般的に生物の死は取り返しのつかないものとされています。しかし、もしも死が取り返しのつくものであるとしたら、あるいは過去の絶滅種に近い生物を蘇らせることができればとしたら、どうなるのでしょうか。クローンや合成ゲノム、遺伝子編集など、近年の分子生物学におけるさまざまな技術の発展により、「脱絶滅 (De-extinctions)」を目指す研究分野が注目を浴びはじめています。

「脱絶滅」は科学、倫理、経済、社会問題への挑戦ともいえる野心的な試みですが、それを擁護する人々は、「脱絶滅」は生態系の回復や気候変動への対処方法の一つとなるとしています。本書ではこうした「脱絶滅」の可能性と、地球の生態系に今後もたらしうる変化について解き明かします。

著者紹介:

カルラス・ラルエーザ・フォックス: 進化生物学研究所 (CSIC-UPF) 研究教授。マンモスに代表される絶滅種のDNA復元に関する古生物学的研究の世界的権威として知られる。2010年には、生物学者 Svante Pääbo が主催するネアンデルタール人ゲノムプロジェクトに参加、『サイエンス』誌に掲載された。現在、ラルエーザ・フォックスはヨーロッパの先史時代の人類の研究に従事。各研究活動に加え、より多くの人々に科学への理解を促すべくポピュラーサイエンスに関する著作を複数出版。また、科学知識の普及活動によりさまざまな賞を受賞、2007年にはバルセロナ市科学研究賞を受賞。

推薦の言葉:

「古代DNAの復元・分析のエキスパートであるラルエーザ・フォックスは、絶滅種復活のための主な技術的課題を論じるにふさわしい人物だ」

**進化生物学者
ベス・シャピロ博士**

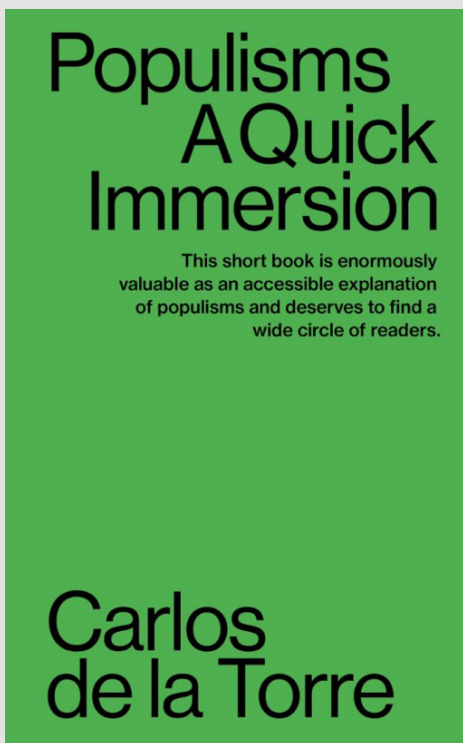
「古代DNA研究のバイオニアの一人として、「脱絶滅」が純粋な技術的好奇心から大きな将来性を抱えた分野へと進化していくプロセスを目にしてきたラルエーザ・フォックス博士は、「脱絶滅」の紹介にまさにふさわしい人物といえるでしょう」

**古生物学と脱絶滅の世界的専門家
マーカス・トマス・ピウス・ギルバート**

2. ポピュリズム

主題:

幅広い読者層に向けてポピュリズムをわかりやすく解説したきわめて価値ある一冊。



- **タイトル:** ポピュリズム
- **著者:** カルロス・デ・ラ・トーレ
- **巻:** 2
- **ページ数:** 200
- **ISBN:** 978-1-949845-01-3
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

1930年代、1940年代から現在に至るまでポピュリストが席卷してきたラテンアメリカというレンズを通し、グローバルな視点から「ポピュリズム」に分析を加えます。世界的視点に立てばポピュリズムは決して目新しい現象ではありません。政治経済権力への対抗手段として19世紀に台頭し、1891年には米国初の「ポピュリスト」党が結成されました。最近ではベネズエラ、ボリビア、フィリピン、トルコ、さらに米国やイタリアを始め欧米の民主主義国家でもポピュリストが政権をとる国が現れています。南半球で台頭したポピュリズムに学ぶことで、北半球の市民、活動家、ジャーナリスト、政治家は、政権の座を手に入れたポピュリストへの対応において同じ過ちの繰り返しを避けることができるでしょう。

著者紹介:

カルロス・デ・ラ・トーレ: 米国ケンタッキー大学社会学教授、FLACSO-Ecuador名誉教授。ニューヨークのニュースクール大学で博士号を取得、ジョンサイモングッゲンハイム記念財団、研究者のためのウッドロウ・ウィルソン国際センター（Woodrow Wilson International Center for Scholars）で研究奨学金を得た。これまでに12冊の著作を出版、100本を超える論文や記事を学術誌に発表。代表的な著書には、編著書『The Routledge Handbook of Global Populism』（2019年）、『The Promise and Perils of Populism: Global Perspectives (The University Press of Kentucky, 2015)』、シンシア・J・アーンソンとの共編著『Latin American Populism in the Twenty-First Century』（the Johns Hopkins University Press and the Woodrow Wilson Center Press, 2013）がある。2010年に『Populist Seduction in Latin America』（Ohio University Press）の第2版が出版された。

推薦の言葉:

「ポピュリズムはその定義を超え、あらゆる意味で拡大が続いている。これほど現代人の心をざわつかせる本はあまりない」

ベンジャミン・ウェルトン

「カルロス・デ・ラ・トーレは、ポピュリズムを破壊作用と動員作用をもつ政治装置、あるいは多様で持続的な学術的議論の対象と捉え、その概観を見事に提示している。本書はポピュリズム研究のメインストリームにラテンアメリカをおき、互いに重複しながらもライバル関係にあるさまざまなポピュリズムの思想と戦略という複雑な地図を明らかにしている」

Journal of Political Ideologies 誌編集長
マイケル・フリーデン

3. 幸福論

主題:

本書は「幸福」とは何か、そしてより多くの「幸福」を創出するにはどうすべきかについて語ります。



Happiness A Quick Immersion

This Quick Immersion addresses
what happiness is and how we can
create more of it.

Benjamin
Radcliff and
Amitava
Krishna Dutt

- **タイトル:** 幸福論
- **著者:** ベンジャミン・ラドクリフ、アミタバ・クリシュナ・ダット
- **巻:** 3
- **ページ数:** 204
- **ISBN:** 978-1-949845-04-4
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

本書は「幸福」に関するさまざまな文献を検証しつつ、「幸福」というテーマに「浸る体験」（イマージョン）へと読者を誘い、さまざまな問いに答えます：幸福の意味とは、幸福の意味は一般概念として理解できるか、幸福にそなわるさまざまな意味を分けるべきか、幸福は各個人がそれぞれの方法で定義・探求すべきか、幸福とそのさまざまな意味は測定可能か、測定可能とすればどのように行すべきか、幸福の実現には何が必要か、幸福は各個人の気質や個人的な事情によるか、あるいは社会制度や政策に左右されるのか、幸福はお金で買えるか、どういった政治、経済、社会、環境要因から人や社会はより幸福になるか、人がより幸福になるために個人としてあるいは集団として何ができるのか。

著者紹介:

ベンジャミン・ラドクリフ：ノートルダム大学政治学部教授。著書に『人間の幸福の政治経済学』（The Political Economy of Human Happiness）があるほか、学術誌で幸福に関する論文を数多く発表。現在、学術誌『Political Behavior』の共同編集者、『Review of Social Economy』の副編集長を務める。

アミタバ・クリシュナ・ダット：ノートルダム大学経済学・政治学教授、FLACO-Ecuador特別教授。幸福、経済成長、不平等、開発に関する数多くの本を執筆し、多数の論文を学術誌に発表。『Review of Social Economy』誌と『Metroeconomica』誌の共同編集者。

推薦の言葉:

「簡潔かつ明快な文章からなるコンパクトな本書は、近年の幸福に関する科学、経済、政治に関する優れたガイダンス。クリアで新鮮な読後感をもたらします」

ダートマス大学歴史学教授
ダリン・M・マクマホン

「政治学者で経済学者でもある著者が、幸福に関する学際的な研究と広範な知識を組み合わせ、個人および社会の幸福の向上のために何が必要かを明らかにする、貴重な見識を形にした一冊」

南カリフォルニア大学（USC）名誉教授 「イースタリン・パラドックス」の提唱者
リチャード・イースタリン

4. 料理という科学

主題:

科学的視点から料理のプロセスを明らかにする一冊。

The Science of Cooking A Quick Immersion

An incisive and well-documented
book that provides an entrance
into the world of cuisine as seen
through the prism of science.

Ferran Adrià

Claudi Mans



- **タイトル:** 料理という科学
- **著者:** クラウディ・マンズ
- **巻:** 4
- **ページ数:** 180
- **ISBN:** 978-1-949845-06-8
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

近年、新たな製品や技術、調理法が注目を集めると同時に栄養や健康、美食の関係性にも関心が高まっています。こうした現象を包括的に理解するツールとなるのがハードサイエンス（生物学、物理学、化学）であり、とりわけ化学を通じ、色、香り、味がどんな物質からもたらされ、調理を通じてどういった変化を遂げるのか解き明かすことが可能です。一方、動植物の細胞組織の化学的あるいは生物学的構造は、食材のテクスチャやその変化の要因となっています。本書では、こうした現象のすべてがわかりやすく示されると同時に、専門知識に基づく情報が豊富に提供されます。本書を通じ、調理行為を通じて食材に起こる変化を知ること、食事の際には感覚的な満足感だけではなく、大きな知的充足感を得ることが可能になるでしょう。

著者紹介:

クラウディ・マンス: バルセロナ大学化学学部名誉教授、化学学部長および科学学科の学科長を歴任。「Tortilla quemada」、「Los secretos de las etiquetas」など著書多数。科学や料理科学について国内外で講義を行う。バルセロナの科学博物館「CosmoCaixa」、美食研究の「エル・ブリ・ラボ (elBulliLab)」にも協力。ANQUE 2011のスペイン化学賞「National Chemistry Award」、バルセロナ大学の最優秀科学普及活動賞など、さまざまな賞を受賞。

推薦の言葉:

「“科学というプリズムを通して眺めた料理”という世界へ読者を誘う、鋭い考察と貴重な記録に満ちた一冊」

**elBulliFoundation
フェラン・アドリア**

「科学的見地に基づくと同時にシェフの目を通し、料理のきわめて重要な一部である科学について見事に解き明かしてみせた、マンス教授の優れた一冊」

**ハーバード大学マリンクロット物理学・応用物理学教授
デビッド・A・ワイツ**

「本書はシェフが厨房で実際に行っており、食事の際は誰もがその恩恵を受けている科学的作用について、専門表現に頼ることなく、明快かつ平明にまとめた優れたイントロダクション」

**化学者、作家
ハロルド・マギー**

5. アリストテレス

主題:

宇宙および人々が存在する場所について、アリストテレスが提唱した方法、つまり科学的見地から眺めることを可能にする一冊。

Aristotle A Quick Immersion

The aim of this book is to enable you to
see the universe and our place in it as
Aristotle thought they had to be seen to
be scientifically intelligible.

C.D.C. Reeve



- **タイトル:** アリストテレス
- **著者:** C. D. C. リーブ
- **巻:** 5
- **ページ数:** 198
- **ISBN:** 978-1-949845-08-2
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

本書は宇宙および人々が存在する場所について、アリストテレスが提唱した方法、つまり科学的見地から眺めることを可能にする試みです。例えば、一枚の肖像画ではさまざまな色やフォルムの集合体としてその人物が表現されているのと同じように、アリストテレスの著作は、人々を取り巻く石や動植物、星空やその彼方の神も含め、宇宙の因果構造を集合的に捉えるさまざまな論証で構成されています。コンパクトかつ「イマーシブ」な文章を通じ、こうしたアリストテレスの思想について読者自身が発見と理解を深められるよう案内します。

著者紹介:

C. D. C. リーブ: アイルランド生まれ。トリニティ・カレッジ（ダブリン大学）および米国の名門コーネル大学で学び、現在、ノースカロライナ大学チャペルヒル校で哲学の特別教授を務める。主な著書に、『愛の混乱』（ハーバード大学）、『盲目と方向転換』（同）、『プラトン共和国の問題』（同）などがある。また、翻訳書にプラトンの『クラティロス』、アリストテレスの『形而上学』『ニコマキア倫理学』『政治学』等。I.B.フィッシュベインとともに、マリーナ・ツヴェターエワの戯曲、詩、散文などを翻訳している。現在、アリストテレス全集の新たな英語版を準備中。

推薦の言葉:

「アリストテレスの著作からその思考を浮かび上がらせ、俯瞰的な視点でアリストテレスについて深い洞察を行う優れた一冊。ねばり強さ、厳密性、さらに大胆な解釈も加えたリーヴの研究が明快に語られている。一般の読者がアリストテレスに「浸る（イマージョン）」ことができるほか、専門家にも多くの知見をもたらすことだろう」

**パトラ大学（ギリシャ）哲学科教授
パブロス・コントス**

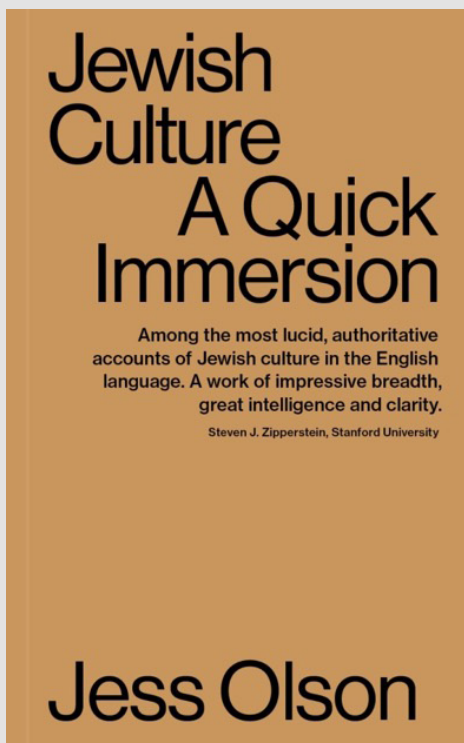
「アリストテレス研究の世界的権威の一人であるC・D・C・リーヴは、数多くの著作を通じアリストテレス哲学のほぼ全域をカバーし、さらに研究者や学生にとり貴重な資料となるアリストテレス翻訳を多く手掛けている。アリストテレス哲学の全体像をコンパクトにまとめた本書では、その難解な思想を一般読者のためにわかりやすく魅力的に伝えている」

**ノースウェスタン大学 チャールズE.およびエマH.モリソン人文学教授
リチャード・クラウト**

6. ユダヤ文化

主題:

ユダヤ人の歴史を通じ、ユダヤ人の文化とアイデンティティを幅広い視点から語ります。



- **タイトル:** ユダヤ文化
- **著者:** ジェス・オルソン
- **巻:** 6
- **ページ数:** 204
- **ISBN:** 978-1-949845-10-5
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

ユダヤの歴史を通じ、ユダヤ文化とそのアイデンティティを俯瞰する一冊。4千年以上の歴史をもつユダヤ人のアイデンティティについて、宗教的、民族的、あるいは国家的観点からわかりやすく解説し、ユダヤの歴史や宗教、文化に詳しくない方にも、ユダヤ教とユダヤ人を形成するさまざまな思想や史実について広範かつ総合的知識を得たい方にも理想的な一冊です。

著者紹介:

ジェス・オルソン: スタンフォード大学で近代ヨーロッパ・ユダヤ史の博士号を取得。現在、イエシーバー大学（ニューヨーク）ユダヤ史准教授。近代ユダヤ文化史・思想史、シオニズムとユダヤ民族主義の歴史、ユダヤ原理主義の歴史について多数の論文を発表したほか、著書も多数。著書には『Nathan Birnbaum and Jewish Modernity: Architect of Zionism（ネイサン・バーンバウムとユダヤの近代: シオニズムの建築家）』、『Yiddishism and Orthodoxy（イディシムと正統派）』（Stanford University Press, 2013）などがある。

推薦の言葉:

「英語圏における、ユダヤ文化についての最も明快かつ信頼に足る書籍のひとつ。深い造詣、高い知性と明晰さをそなえた一冊」

**スタンフォード大学教授（ユダヤ文化・ユダヤ史）
スティーブン・J・ジッパースタイン**

「ジェス・オルソンは本書を通じ、現在のユダヤ人の生を見つめつつ、4千年に及ぶユダヤ史の世界へと読者を誘う。著者の高い専門知識と鋭い洞察力が披露されたこの一冊は、ユダヤ文化の全体像に迫る素晴らしい入門書となっている」

**イエシーバー大学ユダヤ史チャージン教授、イスラエル研究センター所長
スティーブン・ファイン**

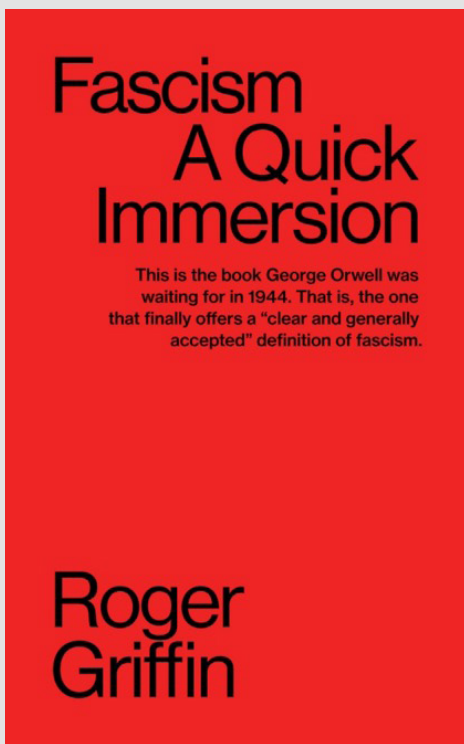
「ジェス・オルソンによる、明快で、深い思考と確かな知識に基づく、魅力あふれるユダヤ文化入門書。強く勧めたい」

**ニューヨーク大学ユダヤ思想・哲学准教授
ミハ・ゴットリーブ**

7. ファシズム

主題:

1944年のジョージ・オーウェルが求めたであろう一冊。待ち望まれた、「明確かつ人々に広く受け入れられる」ファシズムの定義が示されます。



- タイトル: ファシズム
- 著者: ロジャー・グリフィン
- 巻: 7
- ページ数: 238
- ISBN: 978-1-949845-12-9
- 小売価格: 12.95 USD

書籍概要:

75年前、ジョージ・オーウェルは「ファシズムが定義されることはないだろう、少なくとも今のところは」と、ファシズムの一般定義が存在しないことを嘆いた。当時から現代まで、メディア、ブログスフィア（ブログコミュニティ）、一般意見においてもそうした状況はほとんど変わっていないが、この言葉に関心を持ち、かついくばくかの憤慨を覚えた人々にとり、本書の刊行は歓迎すべきニュースとなった。本書では「ファシズム」という言葉をとりまく誤解や混乱を考慮しつつ、簡潔かつ説得力のある実用的定義が展開されている。著者が行った定義は「ファシズムの時代」の研究に取り入れられたほか、初期ファシズムの成功、「第三帝国（ナチス支配化のドイツ）」の破壊的威力、数々の運動がナチスの操り人形となった経緯の理解に大きく貢献し、各国や各言語で行われているファシズムの比較研究分野で共通前提とされている。

著者紹介:

ロジャー・グリフィン: オックスフォード・ブルックス大学で言語学の第一学士号を取得。「ファシズム」を新定義した研究で博士号を取得。本定義は現在のファシズム比較研究における「スタンダード」として広く受け入れられている。主な著書は次の通り: *The Nature of Fascism* (Pinter, 1991), *Modernism and Fascism. The Sense of a Beginning under Mussolini and Hitler* (Palgrave, 2007) and *Terrorist's Creed. Fanatical Violence and the Human Need for Meaning* (Palgrave, 2012). 現在、オックスフォード・ブルックス大学（イギリス）名誉教授。

推薦の言葉:

「本書は、「ファシズム」という20世紀でもっとも複雑なイデオロギー問題についての簡潔で優れたガイドブック。ロジャー・グリフィスは、ポピュリスト的ウルトランационаリズムの再生型に核心をおく政治イデオロギーとして「ファシズム」を分析し、ファシズムが各国で受け入れられた経緯や、現在もさまざまな形で存続することを適正に理解するための批判的ツールをもたらしてくれた」

デューク大学 アン・マーニック・コーガン教授
マーク・アントリーフ

「ファシズムの世界的権威によるコンパクトな一冊。戦中戦後の過酷な歴史をもとに、「ファシズム」について説得力ある定義が行われている。こうした「ファシズム」を現在の右翼政治のさまざまな形態からどのように区別すべきかが語られるほか、自由民主主義に迫りくる危機を理解するために使われる「ファシズム」という言葉の意味が明らかにされる」

ジョージア大学名誉教授
デイヴィッド・ロバーツ

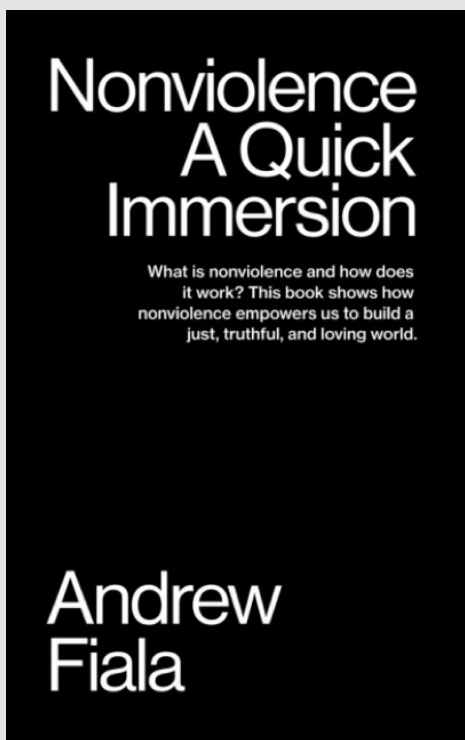
「ロジャー・グリフィン、最も影響力のあるファシズム研究者の一人である。本書はその主要な考えをより広範な読者に伝えるものであり、政治的で、論争的で、ときに混乱を招くファシズムとその定義を明らかにしている」

アラバマ大学政治学部准教授 ジョージ・ホーリー

8. 非暴力

主題:

非暴力とは何であり、それはどのように機能するのだろうか。非暴力を通じ、いかにして公正さと誠実さ、そして愛に満ちた世界を構築できるかを明らかにする一冊。



- タイトル: 非暴力
- 著者: アンドリュー・フィアラ
- 巻: 8
- ページ数: 180
- ISBN: 978-1-949845-18-1
- アメリカ議会図書館管理番号:
2020940731
- 小売価格: 12.00 USD

書籍概要:

本書は、「非暴力」とは何であり、どのように、そしてなぜ使用されるべきなのか、さらに誰が使用すべきかといった問題に答えを示す「非暴力」の概説書。20世紀の公民権運動から、植民地解放運動、「アラブの春」、現代の「ブラック・ライブズ・マター（BLM）」運動に至るまで、非暴力による社会的抗議が成功した例を取り上げ、さらに非暴力のもつパワーに関する最近の分析研究に考察を加えます。また、レオ・トルストイ、マハトマ・ガンディー、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア、デズモンド・ツツ、ダライ・ラマ、マララ・ユサフザイといった近代史の重要人物を取り上げ、非暴力の哲学的・宗教的源泉を探ります。非暴力と民主主義の関係にも触れ、非暴力を通じていかによりよい世界を — 公正性と誠実性、そして愛に満ちた世界を — 構築できるかを明らかにしていきます。

著者紹介:

アンドリュー・フィアラ: カリフォルニア州立大学フレズノ校哲学科教授、倫理センター長。著作は以下の通り: 「Simplicity」 (Palm and Sierra, 2020), 「Transformative Pacifism」 (Bloomsbury, 2018), 「The Routledge Handbook of Pacifism and Nonviolence」 (Routledge, 2017), 「The Peace of Nature and the Nature of Peace」 (Brill 2015), 「The Bloomsbury Companion to Political Philosophy」 (Bloomsbury 2015) 、 「the 9th edition of Ethics: Theory and Contemporary Issues」 (Barbara MacKinnonと共著、Cengage, 2017) 。 Concerned Philosophers for Peace (CPP) の元会長。日刊紙「フレズノ・ビー」紙に毎週、宗教、政治、倫理に関するコラムを執筆している。詳しくはwww.andrewfiala.com。

推薦の言葉:

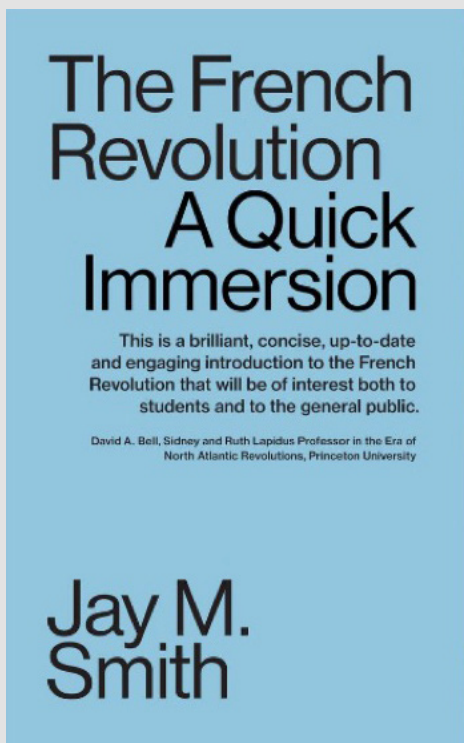
「非暴力のさまざまな側面やその在り方につき、情熱にあふれた解説と擁護が行われた一冊。最も精神的・宗教的なものから道徳的・実践的なものまで、そしてブッダやマハピラ、ソクラテスとイエス、ガンジーとキング、デズモンド・ツツとダライラマ、そしてジーン・シャープとマララ等の人物を取り上げ、非暴力運動とそのアプローチが広く紹介されている。非暴力運動は深く長期的な影響を世界にもたらし、その内的一貫性と品性によって進化をつづけ、影響力をもち続けていると、著者は力強く述べる。著者の豊かな見識が明快に語られた本書は、非暴力が真実と正義、敬意と愛という普遍かつ伝統的な価値観に根ざしていることを指摘した点に、大きな特徴があるといえるだろう。我々が生き方や他人との関わり方を決める際に関心を傾けるべき究極の問題とは、生命と人間の繁栄の重視であるというアンドリュー・フィアラの主張はきわめて意義深い」

ホーリークロス大学哲学科教授
プレドラグ・チコバッキー

9. フランス革命

主題:

フランス革命のイントロダクションである本書はシンプルかつ的確で、最新の知見が魅力的な文章で語られています。学生はもちろん一般読者にもおすすめの一冊。



- **タイトル:** フランス革命
- **著者:** ジェイ・M・スミス
- **巻:** 9
- **ページ数:** 188
- **ISBN:** 978-1-949845-14-3
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2020940997
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

世界史において最も影響力があり、かつドラマチックな出来事の一つであり、続く200年間に起こった世界各地の「自由主義革命」のきっかけとなったフランス革命についての一般向け入門書。当時の独特な政治力学が、空想的楽観主義とさまざまな政治要因に対する悲観的不信感との間で揺れ動く様子や、それにより革命支持派が深刻な危機からさらなる危機へと駆り立てられたプロセスなどがわかりやすく紐解かれます。とりわけ、最初に不信の種が蒔かれた1770～1780年代の財政改革をめぐる状況から、ロベスピエールの失脚と1794～1795年の非常事態政府の崩壊までが詳しく取り上げられます。

著者紹介:

ジェイ・M・スミス: ノースカロライナ大学チャペルヒル校歴史学教授、専門は18世紀フランス。変化を続ける社会的・政治的ヒエラルキーを主要テーマとし、数多くの著作を出版。主な作品に『The Culture of Merit』(1996)、『Nobility Reimagined』(2005)、『Monsters of the Gévaudan 』(2011)等がある。

推薦の言葉:

「フランス革命の紆余曲折をわかりやすく解説した本書は、学生にも理解しやすい簡潔な構成となっている。革命にまつわる出来事に焦点を当て、1789年に起こった革命について教室で討論するために不可欠となるコンテキストがここにある」

**フロリダ州立大学歴史学部教授
FSU歴史学部ナポレオン研究ディレクター兼ベン・ワイダー名誉奨学生
レイフ・ブラウファーフ**

「真に魅力的な没入感。フランス革命の重要な問題が、ジェイ・スミスの生き生きとしたサスペンスフルな語り口で紹介される。それと同時に、近代史における極めて重要な出来事を単に詳しく述べるのではなく、革命の起源とテロリズムの関係を再考し、伝統、革新、偶発的な出来事がいかに爆発的に交錯し、フランスと世界を永遠に変えたかが明らかにされている」

**Sr. ジョンズ・ホプキンス大学歴史学部
および映画・メディア研究プログラム講師
ローラ・メイソン**

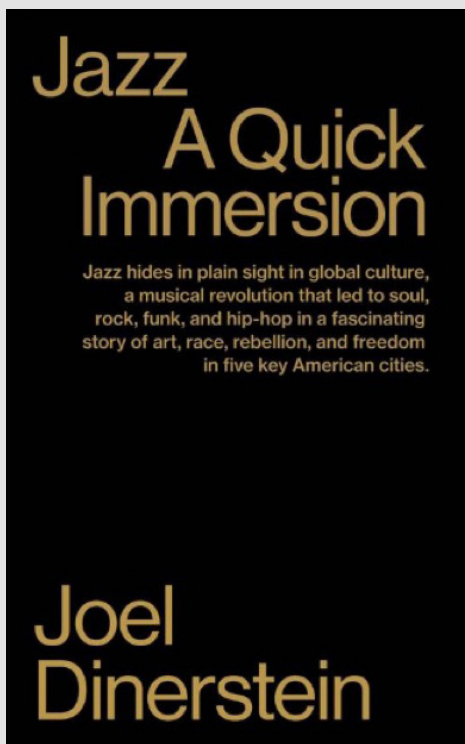
「簡潔でありながら最新情報をそなえた、魅力あふれるフランス革命の入門書。学生はもちろん一般の人々にもおすすめ」

**プリンストン大学 北大西洋革命期の教授
デヴィッド・A・ベル**

10. ジャズ

主題:

ひとつの音楽革命であり、ソウル、ロック、ファンク、ヒップホップ誕生のきっかけとなり、各国文化にさまざまな形で広がったジャズ。ニューオリンズ、シカゴ、カンザスシティ、ニューヨーク、ロサンゼルスという米国5都市を舞台に、芸術、人種、反抗、自由をめぐるエキサイティングなジャズの物語が展開されます。



- **タイトル:** ジャズ
- **著者:** ジョエル・ディナースタイン
- **巻:** 10
- **ページ数:** 226
- **ISBN:** 978-1-949845-15-0
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2020940631
- **小売価格:** 12.95 USD

書籍概要:

各都市のアフロアメリカンコミュニティにおけるジャズの発展に焦点を当て、ジャズのグルーヴ、即興性、音楽的相互作用に関する考え方が、いかにしてアメリカ音楽全体にとって不可欠な要素となっていたかを明らかにします。ジャズとは、芸術、文化、人種、自由、政治、闘争、そして自己表現の物語なのです。

著者紹介:

ジョエル・ディナースタイン: テュレーン大学（米国ルイジアナ州ニューオーリンズ）英語学教授。テキサス大学でアメリカ研究の博士号を取得。著書に、初期ジャズとその産業化を取り上げた『Swinging the Machine』（2003年）、『American Cool』（2014年）、ジャズや映画、アーバン・クールや実存主義、アフロアメリカ文化史に関する『The Origins of Cool in Postwar America』（University of Chicago Press, 2017年）などがある。ジャズ、ブルース、文学に関する講座で教鞭をとり、ニューオーリンズの音楽と文化にまつわる記事を多数発表。ニューオーリンズの世界的なジャズ・ヘリテージ・ステーションであるWWOZ-FMでジャズDJを10年間務めたほか、Putumayo Records、HBOのBoardwalk Empire、National Endowment for the Humanities（NEH）等でジャズおよびポピュラー音楽のコンサルタントとして活躍。

推薦の言葉:

「アメリカの芸術形式のひとつであるジャズについて、ジョエル・ディナースタインが深く鋭い洞察を行った。ジャズの歴史、都市との関係、黒人移民、政治との関係、ストリート、クラブ、コンサートホールの音響の進化、ルイ・アームストロングやマイルス・デイヴィスなどの伝説的人物から、ベン・ウェブスターやハミド・ドレイクなどあまり知られていない主要人物まで、さまざまな視点から紹介している。「ジャズはどこにでもある」というディナースタインの言葉を、コンパクトで万華鏡のような本書がそれを証明している。ジャズの初心者はもちろん、音楽鑑賞のひとつを豊かにしたい人にとってもおすすめの一冊だ」

**『グッド・ブーティ』、『アメリカ音楽における
愛とセックス、黒と白、ボディとソウル』著者
アン・パワーズ**

「ディナースタインは偉大な仕事を成しとげた。本書ではニューオーリンズ、シカゴ、カンザスシティ、ニューヨーク、ロサンゼルスを取り上げ、各都市のアフリカ系アメリカ人アーティストの歴史的コミュニティを通してジャズの発展をたどっていく。ジャズという芸術形式にそなわる深遠な社会的側面をかつけないほど明らかにするとともに、現代生活における価値の高さにも指摘を行う。さらに各ページを通して素晴らしいエピソードや人物を豊富に紹介するほか、一冊の優れたリスニングガイドにも仕立てている。本書の新鮮な観方を通じ、すでにジャズの造詣が深い読者もジャズ発展における複雑な文脈について新たな知識を得ることができるだろう。ジャズに関心があるもののどこから手を付けるべきか迷っている方には、この小さな宝石のような本から始めることをお勧めしたい」 -

**ジャズDJ、WWOZ-FM: ニューオーリンズ・ジャズ&ヘリテージ・ステーション
T.R.ジョンソン教授**

11. パリのノートルダム大聖堂

主題:

フランスを代表するモニュメントとして愛されているノートルダム大聖堂を活写した一冊。

The Cathedral of Notre-Dame of Paris A Quick Immersion

This short book brings
to life Notre-Dame
Cathedral, one of France's
most iconic and beloved
monuments.



Kevin D. Murphy



- **タイトル:** パリのノートルダム大聖堂
- **著者:** ケビン・D・マーフィー
- **巻:** 11
- **ページ数:** 192
- **ISBN:** 978-1-949845-21-1
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2020946204
- **小売価格:** 12.95USD

書籍概要:

数百年にわたり進化を続けるノートルダム大聖堂は、あらゆる時代を通じパリ市民や世界各地のキリスト教徒の聖地として、さらにフランスの象徴として崇拝の対象となってきました。本書ではこうしたノートルダム大聖堂の建設、破壊、忘却、その後の修復という各時代についてわかりやすく解説を行います。19世紀半ばに建築家のヴィオレ・ル・デュックとJ・B・ラシュスのもとでノートルダム大聖堂の大規模な修復が行われ、中世にオマージュを捧げ大聖堂のシンボルとなる尖塔がおかれましたが、しかしこの尖塔は2019年4月15日の火災で焼け落ちてしまいました。

著者紹介:

ケビン・D・マーフィー: ヴァンダービルト大学人文科学教授、美術史教授。ノースウェスタン大学で博士号を取得、バージニア大学およびニューヨーク市立大学大学院で教鞭をとる。ヨーロッパと北米を中心に19世紀の建築物と物質文化に関するコースを指導。著書に『Memory and Modernity』、『Viollet-le-Duc at Vézelay』(2000年)、『Jonathan Fisher of Blue Hill, Maine: Commerce, Culture and Community on the Eastern Frontier』(2010年)、ほか。共編著に『Skyscraper Gothic: Medieval Style and Modernist Buildings』(2017)等。

推薦の言葉:

「ケヴィン・D・マーフィーはパリのノートルダム大聖堂の受難の歴史をわかりやすく語り、ローマ時代に起源を遡るこの多面的なモニュメントが「フランスの顔」となっていくプロセスを明らかにする。一般読者から専門家まであらゆる人々を魅了する明快な文章で、過去から現在の建設、破壊、修復を通じてフランス政治史の証人となった大聖堂について詳しい解説が行われる。世界中の人々から愛されるノートルダム大聖堂の全史を初めて明らかにした優れた一冊」

バージニア大学建築学部教授
リサ・ライリー

「一般から専門家まであらゆる読者を対象にマーフィー博士が上梓した、世界でもっとも偉大なモニュメントのひとつであるノートルダム大聖堂の分析と歴史紹介。一般的に考えられているようにノートルダム大聖堂はシームレスなゴシック建築ではなく、きわめて豊かで複雑な歴史をもつ建物であることを、わかりやすく魅力的な文体で伝える。「クイック・イマージョン」というタイトルだが、読者はパリのノートルダム大聖堂を長年にわたり見守ってきたかのような感覚を覚えることだろう」

テキサス工科大学研究・学部開発担当副学部長
クリフトン・エリス
テキサス工科大学建築士教授
エリザベス・ササー

12. 公民権

主題:

公民権の世界的権威であるアンドリュー・アルトマンが著した本書は、本分野の研究者にユニークで価値ある洞察をもたらすだけでなく、学生あるいは本分野に関心をもつ一般の人々のための明快なイントロダクションとなっています。公民権という重要な分野の研究においてスタンダードとなった一冊。

ワシントン大学セントルイス校哲学教授・学術企画部長
クリストファー・ヒース・ウェルマン

Civil Rights A Quick Immersion

This book, written by one of the world's leading authorities on civil rights, contains important original insights of value to scholars working in the area while remaining accessible to students and interested members of the general public.

Christopher Heath Wellman, Professor of Philosophy and Dean of Academic Planning, Washington University-St. Louis.

Andrew Altman



- **タイトル:** 公民権
- **著者:** アンドリュー・アルトマン
- **巻:** 12
- **ページ数:** 196
- **ISBN:** 978-1949845-23-5
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2020949795
- **小売価格:** 12.95 USD

書籍概要:

「公民権」という概念は、過去数世紀にわたり世界各地で取り上げられ、数多くの個人や団体がそのために行動を起こしてきました。しかし、公民権とは一体何でしょうか。なぜこの概念が現代世界史で重要な役割を果たしたのでしょうか。社会がさまざまな問題に直面する21世紀初頭、公民権はどういった意義を持つのでしょうか。本書はこうした問いかけに哲学的および歴史的観点から答えていきます。また、社会の構成員となるのは誰で、その条件が何であるかをめぐり、数世紀前から行われてきた法的・政治的論争を紐解き、公民権の扱われ方を振り返ることで、この概念の解明を試みます。本書は黒人の公民権運動、ヨーロッパのユダヤ人の解放、そして19世紀から20世紀にかけての国際的な女性運動という、3つの歴史的な公民権運動を取り上げ、各運動の共通点と相違点から教訓を導き出し、性的指向、宗教、人等種などの問題を含む21世紀の公民権問題に考察を加えます。

著者紹介:

アンドリュー・アルトマン: ジョージア州立大学名誉教授（哲学）。コロンビア大学で法哲学と政治哲学を専攻、博士号を取得。法哲学と政治哲学について4冊の書籍と数十本の学術論文を発表している。最新作は『Debating Pornography』（Oxford U.P. 2019、共著者: Lori Watson）。全米人文科学基金（米国）から5つの主要な助成金を受けたほか、ジョージア州立大学から複数の教育賞を受賞。

推薦の言葉:

「アンドリュー・アルトマンの『公民権』は、現代社会の権利にまつわる問題について新たな地平を切り拓く一冊。アルトマンは本書で公民権運動、人権、道徳、自然権、法的権利等の関係性について解説を行い、いくつかの公民権運動の歴史、とくにアメリカの黒人やヨーロッパのユダヤ人の政治闘争に焦点をあてて冷静な考察を試みる。公民権運動とは、ある公民権が拒否され、やがて法的に確立され、司法判決や条約により取り消され、再び認められ、また剥奪されるという、法改正に伴うメリットやデメリット、苦難の果てに手に入れた成功そして悲慘な敗北の間を行き来する動きであり、そうした事実がドラマチックに描かれる。アルトマンは政治的認知の獲得と喪失の繰り返しについて、それは法改正の内在的要素であり、それを理由として公民権の維持が達成されなかったのではないかと分析。そこから「公民権には2つの意味がある」という挑発的な、しかし現実性の高い主張を行い、かつ「決定的な意味において、本書で扱う権利というものは、付与や取消しはできないが、認知、保護、侵害することはできるのでは」と問いかける。エキサイティングな、そして明快な文章で語られる本書を通じ、多くの方が公民権の世界に触れられることを願う。

ジョージア州立大学哲学科 主席上級講師
サンドラ・ドワイヤー

13. フェミニズム

主題:

本書は女性の抑圧の原因、それが続く理由、そして、その克服のために必要なことは何かを解き明かします。

Feminism A Quick Immersion

This short book explores what led to women's oppression, why it has remained so firmly in place, and what needs to be done to overcome it.

Noëlle McAfee



- タイトル: フェミニズム
- 著者: ノエル・マカフィー
- 巻: 13
- ページ数: 187
- ISBN: 978-1-949845-26-6
- アメリカ議会図書館管理番号: 2021933254
- 小売価格: 12.95 USD

書籍概要:

なぜ女性は、近代社会で理想とされる進歩、理性、啓蒙の反対側あるいは裏側に置かれてしまうのでしょうか。女性の抑圧という現象と、女性は受動的かつ感情的で弱い存在であり、非合理的であるという抑圧的概念のどちらが先に生じたのでしょうか。こうした難問に対する答えを求め、本書は過去から現在へと考察を行います。精神分析と現代理論に基づき、こうしたイメージをいかに克服すべきか、女性がいかにして自身の願いに気づき、それを実現できるかを探求します。

著者紹介:

ノエル・マカフィー: エモリー大学哲学科教授、精神医学・行動科学科教授兼任。エモリー大学精神分析研究プログラムのディレクター、エモリー大学女性・ジェンダー・セクシュアリティ研究学部兼任教授。『ケタリング・レビュー』共同編集者、スタンフォード哲学百科事典のフェミニスト部門の役員会メンバー。これまでに6冊の著書を出版、うち最新作は『Fear of Breakdown: Politics and Psychoanalysis』は、アメリカ精神分析協会の2020年「Courage to Dream Book Prize（精神分析の学術と臨床を最もよく統合した本）」を受賞。

推薦の言葉:

「ノエル・マカフィーは本書を通じ、フェミニズムとフェミニズム理論について全体像を鮮やかに浮かび上がらせ、フェミニズムにおけるさまざまな形態や意見をストレートに伝える。学生はフェミニズムの広がりとその範囲を把握でき、研究者はマカフィーによるフェミニズムの精神分析的な解説および構造的抑圧への批判に関心を惹かれることだろう。もちろん、教鞭をとる方には貴重なテキストとなる。」

ストーニー・ブルック大学哲学・比較文学部教授
メアリー・C・ローリンソン

「驚くほど包括的で、明確かつ高い説得力をもつフェミニズムの入門書。読者は本書を通じ、性差別、抑圧に対する反対運動などについて多くの情報を得ることができる。フェミニズムの本質を明らかにした、マカフィーの優れた一冊」

ノースカロライナ大学シャーロット校哲学科・健康心理学教授
シャノン・サリバン氏

14. 国際移民

主題:

実証的な研究に基づき、難民や移民に関する誤解を解くべく建設的な議論が展開される一冊。

International Migration A Quick Immersion

Based on empirical research, this book dispels misperceptions and opens up constructive debates regarding refugees and migrants.

Elżbieta M. Goździak



- タイトル: 国際移民
- 著者: Elżbieta M. Goździak
- 巻: 14
- ページ数: 152
- ISBN: 978-1-949845-27-3
- アメリカ議会図書館管理番号: 2021935891
- 小売価格: 12.00 USD

書籍概要:

世界各地で移民に対する反感が高まり、各国の市民は、政治家が移民問題について効果的なリーダーシップを発揮できないことに不安を感じています。移民に関する誤解やそこから生じる外国人嫌悪や人種差別はポピュリスト政治家の台頭を引き起こし、保護主義の再興やグローバル化の逆行、さらに国家間の壁やフェンスの設置につながっています。本書は、移民が社会悪の元凶であるという誤解を解き、一般の方も難民や移民について建設的議論が行えるよう、「国際移動」という現象に関する基礎知識をもたらします。

著者紹介:

Elzbieta M. Gozdziaik: アダム・ミツキェヴィッチ大学（ポーランド、ポズナン）客員教授、オスロメット大学（ノルウェー）研究教授。2002年から2018年までジョージタウン大学国際移民研究所（ISIM）の研究教授を務める。2016年秋にハンガリー・ブダペストの中央ヨーロッパ大学（CEU）でジョージ・ソロス客員教授（公共政策）を務める。さらに学術雑誌『International Migration』の編集長を務め、米国の保健福祉省難民定住課（ORR）で上級職を歴任。ポーランド、タイ、インドネシア、スロベニアでフルブライト奨学金を受けたほか、イタリアのベラージオにあるロックフェラー財団センターのレジデンシャル・フェローシップの経験を持つ。.

推薦の言葉:

「本書は、なぜ移民が重要な問題であり、（国内であれ各国間であれ）人口移動に対する理解が私たちの生きる世界を理解する上で重要であるかという疑問に対し、時間や空間、さらに学問分野も横断して答えを模索するきわめて意欲的な一冊である。それは、移民問題について魅力的に語る力と最新知識をあわせもつ造詣豊かな友人との長い会話を思わせる。一般読者はもちろん、移民問題に関心を持つ人や本分野の専門家にもフレッシュかつ包括的な知見を提供してくれる 一冊」

**米国マカレスター大学人類学教授・アソシエイトプロボスト
ダイアナ・シャンディ**

「本書は、選択的、強制的、あるいは経済的な必要性から生じる様々な移動を取り上げ、移民の本質を捉えた一冊である。人々のこうした移住パターンは人間世界を映し出す鏡のようなものであり、一部の政治家や著名文化人が人々に信じ込ませようとする物語よりもリアルな現実が反映されている。著者が行ったケーススタディを通じ、より良い生活を求めて地球上をさまよう何百万もの人々について、良い面も改善が必要な面も明らかにされている。さらに、なぜ人々は移民の流入に困惑を感じるのか、移民は各自の国に留まるべきではないのか、移民の中にテロリストはいないのか、といった重要な問題に対し、シンプルかつ分かりやすい文章で見解が述べられている」

**シドニー大学、オーストラリア
ベンジャミン・ニクル博士**

15. 人生の意義

主題:

アルベール・カミュの哲学的随筆『シーシュポスの神話』は人生の不条理に対する個人的闘争のメタファーである一方、本書は生の神秘を前に、いかに人生の意義を見出すかという問題に取り組んでいます。

The Meaning of Life A Quick Immersion

While the myth of Sisyphus, who is condemned to repeatedly roll a boulder up a hill that invariably rolls back down, is a metaphor for the individual's struggle against the absurdity of life, this book sheds light on how to find meaning in the mystery of existence.

Predrag Cicovacki



- **タイトル:** 人生の意義
- **著者:** プレドラグ・チコヴァッキ
- **巻:** 15
- **ページ数:** 168
- **ISBN:** 978-1-949845-28-0
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2021943309
- **小売価格:** 12.00 USD

書籍概要:

ブレドラグ・チコヴァッキは本書を通じ、人生を意義あるものにするのは何かという思索へ読者を誘い、理論と実践、人生についての考え方と生き方とは不可分であるべきだと論じます。道徳を語ることが徳を積むことから分けられないのと同じく、人生の意義を論じることは、有意義な生き方を目指すことから切り離すことはできません。尊敬に値する人々の生き方をみていけば、有意義な人生を送ることは、究極的には一個人の自己実現や幸福の追求ではないことがわかってきます。自我は究極の現実でもなく、究極の関心事でもありません。むしろ人生における意義の探求は、各個人の人生よりもっと大きなものに向けられるべきであり、そうした献身に値するものと、値しないものを見分けることが大切です。しかもそれは、一人で行うことはできません。

著者紹介:

ブレドラグ・チコヴァッキ: ホーリークロス大学（米国）哲学科教授。著書に『ドストエフスキーと生命の肯定』（2012年）、『ガンジーのフットプリント』（2015年）、『愛の輝き』（2018年）。共著に『生き方としての非暴力』（ケンディ・ヘスとの共著、2017年）、『トルストイとスピリチュアリティ』（ハイディ・グレックとの共著、2018年）など。

推薦の言葉:

「美点、運、感謝、閃きに基づいた、そして非常に読みやすく、心に響く哲学的考察。読者が人生において人間関係に感謝できるようになる、思慮と洞察に富んだ一冊」

ハミルトン大学ジョン・スチュワート・ケネディ名誉哲学教授
リチャード・ワーナー

「ブレドラグ・チコヴァッキは、「美点」「運」「感謝」「閃き」という4つの資質に注目しつつ、人生の意義という問題に取り組んでいる。表面的にならず、つねに親しみやすく、ニュアンスに富み、深く学べる本書を通じ、人生の意義を探求そして創造するためのさまざまな方法を明らかにしている」

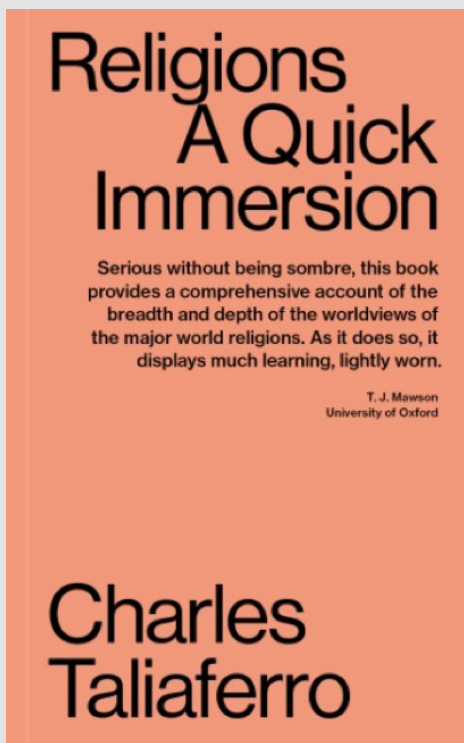
初期キリスト教と古代ユダヤ教研究者
英国ケンブリッジ大学ピーターハウス校特別研究員兼個別指導教員
ジェームズ・カールトン・パジェット博士

16. 宗教

主題:

地球上に存在する主な宗教の広く深い世界観について解説する、真摯なしかしモノトーンに陥らない一冊。本書を通じ、読者は多くの知識を身に着けることができるでしょう。

オックスフォード大学
T・J・モーソン



- タイトル: 宗教
- 著者: チャールズ・タリアフェーロ
- 巻: 16
- ページ数: 172
- ISBN: 978-1-949845-30-3
- アメリカ議会図書館管理番号: 2021948508
- 小売価格: 12.95 USD

書籍概要:

タリアフューロは本書を通じ、現代社会における各地の人々および歴史の多様性を理解するには宗教理解が不可欠だとしています。そして、世界の偉大な宗教は、人生の意義を探究するため力強く深い精神的資源をもたらしてくれると語ります。ヒンドゥー教、仏教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、その他5つの宗教の伝統についてわかりやすく紹介するほか、独断や偏見なしに、世界の宗教の共通点と相違点について理解を促す総合的な一冊。宗教の定義あるいは宗教研究の方法を取り上げるほか、信仰の本質、超越的な実在（神、アッラー、ブラフマン、涅槃、道教）の存在、祈りや瞑想の実践、苦しみの問題、死後生の可能性など、宗教に関する幅広いテーマについて解説を行います。

著者紹介:

チャールズ・タリアフューロ：神学修士（ハーバード大学）、神学博士（ブラウン大学）。セント・オラフ・カレッジ哲学教授およびオーバービー特別講座教授。ケンブリッジ大学プラトニズム研究センター（The Cambridge Centre for the Study of Platonism, Cambridge University）のスカラー・イン・レジデンス。『Open Theology』誌編集長であり、35を超える書籍の著者、共著者、編集者。最近の作品は『Is God Invisible? An essay on Religion and Aesthetics』。『Wiley Blackwell Encyclopedia of Philosophy of Religion』全4巻のシニア共同編集者。

推薦の言葉:

「タリアフューロは、世界の主要な宗教とその在り方について、大変詳しく息を呑むような研究を行った。宗教的事象を俯瞰的に捉えた本書は多くの人にとり大きな助けとなるだろう。」

マカオ大学
ビクトリア・S・ハリソン

「本書は自身の宗教や他者の宗教の本質的な特徴を理解するための、有益な情報にあふれた入門書です。宗教の多様性について疑問があれば、答えをもたらす知見に出会えるでしょう。イスラーム研究の教師であるタリアフューロのイスラームに関する見解はきわめて正確かつ包括的で、公正を期しており、本書を通じ読者はたちまちこの主題に“浸る”ことができるでしょう」

イラン、タルビアット・モダレス大学TMU
モハマッド・サイドメア

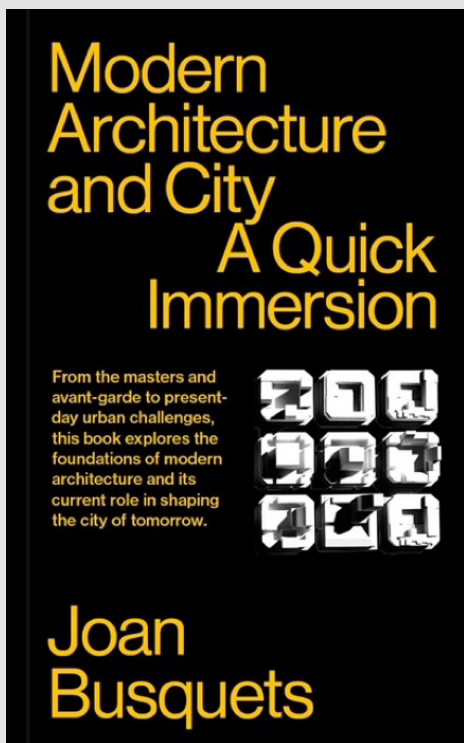
「宗教というテーマに“素早く浸る”にあたり、チャールズ・タリアフューロにかなう案内役はいないだろう。宗教史と宗教の本質に関する深い造詣、偏見のない解説、簡潔かつ魅力的な文章を通じ、刺激に溢れた豊かな学びの旅へと読者を導いてくれる。非常に読み応えのある一冊」

ベセル大学哲学・神学部教授
チャド・マイスター

17. 近代建築と都市

主題:

建築の巨匠、前衛建築から現代都市が抱える課題まで、本書は近代建築のベースと、今後の都市を形成する建築に課された役割を明らかにします。



- ・タイトル: 近代建築と都市
- ・著者: ジョアン・ブスケッツ
- ・巻: 17
- ・ページ数: 264
- ・ISBN: 978-1-949845-29-7
- ・アメリカ議会図書館管理番号: 2021952979
- ・小売価格: 17.00 USD

書籍概要:

本書は近代建築にまつわるさまざまな「歴史」を振り返り、巨匠や前衛主義が登場した黎明期の定義を試みるとともに、近代建築の広がりや、それに対する批判や矛盾を取り上げます。第2章では現代建築に焦点をあて、専門的な表現を避けながら現代都市が抱える問題を明らかにします。それに従い現代建築に求められる役割について5つの質問をあげ、10の「プロジェクト戦略」について検討を加えていきます。最終的に、デジタル改革がすすむ現代において、これからの都市社会のために建築に課せられた役割や挑戦について語ります。

著者紹介:

ジョアン・ブスケッツ: 建築家、都市計画家。ハーバード大学デザイン大学院の初代マーティン・バックスバウム教授（都市デザイン）。バルセロナアーバニズムラボラトリー（LUB）の創設メンバー、カタルーニャ工科大学（UPC）バルセロナ建築学校（ETSAB）教授。約20の研究スタジオの運営に関わり、「X Lines」や「Urban Grids」など都市のフォルムに関する研究やプロジェクトを展開。バルセロナ市議会の都市計画ディレクターとして、1992年のバルセロナオリンピックに向けた都市再生に貢献。都市デザインに関する論文や書籍を多数発表。BAUチームでは、バルセロナ、アムステルダム、アコルーニャ、アルゲーロ、デルフト、寧波、モントリオール、サンパウロ、リスボン、シンガポール、上海、トレド、トゥールーズなどで都市プロジェクトを実施。過去10年間で、オランダのエラスムス賞、カタルーニャの建築・公共空間賞、フランスのアーバニズム賞、2021年にはUIAのP.アバクロンビー賞を受賞。

推薦の言葉:

「我々の多くは、そして世界の人口のほとんどは都市部に暮らしています。本書では建築環境への理解を促すべく、傑出した都市生活者の視点から近代建築の時代から現在に至るまでをフレッシュな語り口で振り返り、どのように、そしてなぜ各都市が今のような姿をとったのか明らかにし、より深い理解へと読者を誘います」

IE建築・デザイン学部長
マーサ・ソーン

18. 不安

主題:

「不安」とは過去のノイローゼと関わりをもつという画期的な考え、およびそうした傾向のある「体型」を特定する試みが語られます。

Anxiety A Quick Immersion

This book explores the novel idea that anxiety hides in plain sight in our ancient neuroses, finding a body type predisposed to it.

Antonio Bulbena



- **タイトル:** 不安
- **著者:** アントニオ・ブルベナ
- **巻:** 18
- **ページ数:** 246
- **ISBN:** 978-1-949845-32-7
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2022933658
- **小売価格:** 14.95 USD

書籍概要:

「不安」は人生に対処する力をもたらし、困難に直面したときには自分自身を守るための強力な仲間となります。しかしそれと引き換えに、圧倒されるような感覚、人ごみでの不快感、他人と話すことの難しさ、恐怖症、最悪の事態の想像、あるいは緊張、心配、過剰な防衛意識を生じさせることがあります。一定の感情と同じく「不安」は名づけることも説明も難しい、豊かで強烈な感情の集まりとなって沸き起こります。本書が生まれた大きな理由の一つはまさに不安に悩む人々の体験と告白で、長年の経験と研究に基づき、これまでにない独自の視点から不安という現象を解き明かします。本書を手にした読者は新次元のテクスチャと深さを感じることができるでしょう。

著者紹介:

アントニオ・ブルベナ (MD, PhD, MSc) : バルセロナ自治大学精神科の特別教授兼学科長。同大学で医学と精神医学の教育を受け、その後バルセロナ大学で博士号を取得。その後ケンブリッジ大学（アデンプルック病院およびフルボーン病院）にて、G.ベリオス教授およびE.ミラー教授に師事し、サイエンス修士課程を修了。遺伝性結合組織障害と障害に関する理事会（the Board Committee on Selected Heritable Connective Tissue Disorders and Disability）メンバー。

国際的に有名な精神科医であり、科学者、医療システム管理者として高い評価を受けている。著名科学雑誌に多数の論文を発表。最も知られた研究分野は、不安障害と身体的状態、特に関節可動域狭窄症候群との関係。不安症への新たなアプローチは、神経生物学的メカニズム（自律神経機能障害など）や身体合併症を含み、現在の精神医学の分類学ではいまだ軽視されている領域として注目を集めている。

推薦の言葉:

「本書は、経験、特徴、適応、あるいは障害として、「不安」の徹底的な探求を行うものである。また、身体的な問題にも大きな関心を寄せており、不安、関節の過可動性、自律神経失調症が併発されるという重要な臨床の問題に対処した、斬新で有益な見解を提供する。とはいえ軽妙なウィットを交えて語られるカジュアルな解説書だ」

マサチューセッツ州チェスナットヒル在住 精神科医
リチャード・バーナム

19. 美の本質

主題:

本書は、美の本質について、世界各地の古典的な考察を紹介します。美は、私たちの喜びを高め、深め、世界と互いに心を開いてくれます。

Beauty A Quick Immersion

This book offers classic reflections from around the world about the nature of beauty, which can enhance and deepen our pleasures, opening us to the world and one another.



Crispin Sartwell



- **タイトル:** 美の本質
- **著者:** クリスピン・サルトウェル
- **巻:** 19
- **ページ数:** 180
- **ISBN:** 978-1-949845-33-4
- **アメリカ議会図書館管理番号:** 2022935708
- **小売価格:** 12.95 USD

書籍概要:

素晴らしい花々、色鮮やかな夕暮れ、ボブ・マーリー、マリリン・モンロー、大自然、都会の祭典、お気に入りの歌やお気に入りの靴..... たとえそれが多くの社会問題や社会ヒエラルキーと絡み合っているとしても、人々は至るところに「美」を見出し続けます。「美」とは何かという問いは難しく、そして考える必要もないことかもしれません。しかし、クリスピン・サルトウェルはコンパクトな本書を通じ、「美」の本質に関する世界中の古典的考察は人々の喜びをより大きく深いものにし、世界や他者に対し心を開ききっかけとなることを明らかにします。

著者紹介:

クリスピン・サルトウェル: 米国ペンシルバニア州カーライル、ディキンソン大学哲学教授。著書に『Six Names of Beauty』(Routledge 2006)、『Political Aesthetics』(Cornell, 2010)があり、『New York Times』、『Wall Street Journal』、『Times Literary Supplement』などに寄稿多数。パートナーで画家のジェーン・アイリッシュとともに、ゲティスバーグ近郊に在住。

推薦の言葉:

「サルトウェルは「美」という概念を徹底的に調査し、洗練されたそして読みやすい書籍に仕立てた。自身の既刊書の成果を集約し、新たな情報を加えたコンパクトな一冊には世界各地の思想家の考えがまとめられている。そして「美」とは何か、その用途と価値は、「美」に特有の問題とは、といった問いに対し、読者自身が答えを見出せるよう導いている。サルトウェルは難解な論争に最初から踏み込みつつ、最後までどちらの側にも立つことはない。しかし、最後まで読み飛ばさないように！本書は優れた教材となり、現役学生にも生涯学習者にも大いに役立つことだろう」

南イリノイ大学
ランドール・オーシア

「長年の研究から取り出された美の理論というものは難解な抽象論に陥りがちだが、クリスピン・サルトウェルはそうした例にはならなかった。美の概念は客観的か主観的かという誤ったジレンマを暴き、美が政治に及ぼす影響も取り上げつつ、サルトウェルは公共哲学の好例となる作品を世に送り出した」

美学研究所創設者、ボストン建築大学MssArt講師
マイケル・R・スピチャー

20. 自閉症

主題:

自閉症を定義することは簡単ではない。しかも、神経多様性を擁護する人々と、治療法を求めて試行錯誤する人々の間で自閉症についての概念が二極化している現在は、なおさらである。自閉症をあらゆる意味において理解すべく、著者はこの複雑な世界について広範かつ深い洞察を試みる。

Autism A Quick Immersion

Defining autism is not an easy task, and even less so now that the concept has become polarized between those who defend neurodiversity versus those who are fighting to find a cure. In an attempt to understand autism in all its magnitude, the author offers a wider and deeper perspective on this complex world.

Maria J. Portella

Tibidabo Publishing



- タイトル: 自閉症
- 著者: マリア・J・ポルテラ
- 巻: 20
- ISBN: 978-1-949845-34-1
- アメリカ議会図書館管理番号: 2022940092
- 小売価格: 12.95 USD

書籍概要:

自閉症を理解するには、自閉スペクトラム症について解説を試みるだけでなく、さまざまな視点から自閉症の意味を確かめ、あらゆる角度から検討を加える必要があります。本書では医学的・神経科学的な視点に加え、社会、法律、労働、教育など他の面からも自閉症を検討します。自閉症のよりグローバルな概念を明らかにし、最終的に自閉スペクトラム症の人々がどのように生き、ものごとを知覚し、感じ、考えているのかについて解き明かします。また本書では、自閉症の判断基準から外されることの多い、「その他の特性」（女性の自閉症、感情調節障害、不安など）にも考察を加えるほか、誕生から老年期まで、学校教育、職場、家族、対人関係など、人生のさまざまな領域における自閉症の影響を検討します。最後に、包括的で敬意溢れる社会を実現すべく、自閉スペクトラム症の人もそうでない人も、あらゆる人々が環境によりよく適応するための日常的なアドバイスやヒントが示されます。

著者紹介:

マリア・J・ボルテラ: エス・ミジョルン・グラン（メノルカ島、1975年）生まれ。臨床神経心理学の専門家で、神経科学で博士号を取得。バルセロナ大学、オックスフォード大学（英国）で学ぶ。現在、バルセロナのサンパウ病院研究所のメンタルヘルス研究グループのリーダーで、バルセロナ自治大学メディカル・アソシエイトでもある。ボルテラ氏の主な研究テーマは成人の重度鬱病で、国際専門誌に100以上の研究論文を発表。キャリアを通じてさまざまな助成金や賞を受賞している。息子が自閉症であることから、自閉症について執筆を開始。2018年に『Mundos Invisibles（見えない世界）』を出版したほか、『El espectro autista explicado por una madre neurocientífica（脳科学者の母が解説する自閉スペクトラム症）』（Tibidabo Ediciones）という個人的経験を率直に語った書籍がある。

推薦の言葉:

「他人の目（ましてや脳!）で世界を見ることは簡単なことではない。ましてや、その人が“自閉スペクトラム症”であり、きわめて特別な方法で世界を捉え、表現する場合はなおさらである。マリア・J・ボルテラは本書を通じ、あらゆるものに対する別の理解の方法を示すとともに、我々を自閉症の世界に“浸る”経験へと案内してくれる」

バルセロナ大学精神医学部教授
エドゥアルド・ビエタ・バスクアル



連絡先:

+1 (917) 259-1221
customers@quickimmersions.com